

# Newsletter

JAPAN SOCIETY OF EDUCATIONAL INFORMATION

日本教育情報学会

NO.119 2006.12.18

〒500-8813 岐阜県岐阜市明德町10番地 杉山ビル4F 岐阜女子大学 文化情報研究センター内  
 日本教育情報学会 運営本部事務局 Tel:058-267-5233 Fax:058-267-5238  
 E-mail:nkjg@gijodai.ac.jp http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei

## \*\*\*\*\* 第23回年会会場が決まりました \*\*\*\*\*

第23回教育情報学会年会は、2007年8月20日(月)～21日(火)茨城県水戸市の常磐大学に於いて、開催することが決定いたしました。

詳細は今後 Newsletter 等でご案内いたします。多くの会員の参加を期待いたします。

## \*\*\*\*\* 第22回定時総会報告 \*\*\*\*\*

8月26日(土)13:05から岡山理科大学 25号館8階理大ホールにおいて、日本教育情報学会第22回定時総会が開催されました。

正会員463名のうち81名の出席があり(委任状による出席者35名を含む)、定款27条により総会は成立。後藤忠彦会長を議長として総会を開会しました。

提案された3議案 第1号議案 2005年度事業報告及び収支決算の件  
 第2号議案 2006年度事業計画及び予算案の件  
 第3号議案 役員選任(補充)の件

は、審議の結果、原案通り承認されました。(議案内容は Newsletter No.118 をご参照ください)

総会終了後、日本教育情報学会学会賞の表彰式を行いました。

## \*\*\*\*\* 2006年度日本教育情報学会学会賞受賞者 \*\*\*\*\*

### ●奨励賞 (1件)

前年度の学会研究発表大会において発表された優れた研究の中から選考する

- ・村瀬 孝宏(中京短期大学) 「項目反応理論を利用した e-Learning の試み」  
 PID 理論(比例、微分、積分)に基づいた問題抽出を応用し、WEB サーバにシステム構築した点は、今後 e-Learning に大いに貢献する。(2005年第21回年会発表)

### ●論文賞 (1件)

学会誌『教育情報研究』に掲載された論文のうちで特に優れたものに対して授与する。

- ・西 俊之(庄和町立桜川小学校) 「児童の発達と情報モラル教育の適時性に関する研究」  
 今日の課題である情報モラル学習について初等教育段階での取り組みについて論理的、実証的に言及している点は極めて教育実践研究上有益である。(教育情報研究第21巻第2号)

### ●特別賞 (該当者なし)

\*\*\*\*\* 日本教育情報学会第22回年会開催報告 \*\*\*\*\*

日本教育情報学会第22回年会は、岡山県教育委員会、岡山市教育委員会の後援をいただき、岡山市を一望できる岡山理科大学を会場に平成18年8月26日(土)～27日(日)の両日に開催しました。両日とも非常に暑い夏の日でしたが、約170名の方が参加され、盛会のうちに開催することができました。

ブロードバンド・インターネットの普及やIT技術の高度化により教育のIT化が進んでいる現在、e-learningは地理的な距離や時間に制約されない教育環境を提供し、地理的に離れている様々な組織や学習時間帯が異なる様々な人に教育を提供することが可能です。e-learningのこれらの特徴を利用した連携教育の取り組みが各所で行われておりますので、今年の年会では「e-learningによる連携教育の課題と将来」というテーマで、その連携の仕組み、教育効果、課題、将来構想についてシンポジウム形式で考究されました。

基調講演として、「国際環境専門家の育成における情報教育」をテーマに岡山大学大学院環境学研究所の山本秀樹先生によるご講演をいただき、100名を超える聴講者がメモをとりながら、熱心に聴き入っていました。

引き続き行われたパネル討論では、その連携の仕組み、教育効果、課題、将来について、連携教育を実践されているパネリストの方々にご報告いただきました。岡山理科大学の木村先生には岡山理科大学が取り組んでいる高大連携と大大連携を融合したCyber Campusについて、山口大学の林先生には海外との連携教育について、岐阜県羽島中学校の横山先生には地域の小学校、中学校、高等学校の連携について、それぞれご紹介いただきました。

その後、コメンテータの大阪市立大学の中野秀男、NTTドコモの小宮正巳、カーネギーメロン大学日本校のDavar Pishva各先生からのコメントをいただき、さらなる発展のために課題を抽出し、将来を展望できました。

課題研究は「遠隔授業による教育の連携」「情報技術による教育のユニバーサル化」「教育支援システム」「教育で利用する情報をより使い易くするには～どのような案内情報が必要か～」 「学校教育での情報の取扱い方の現状と課題」「情報社会における教育の方法と評価」の6課題に50件が発表され、一般研究も「e-learning」「教育方法・授業分析・学習評価」「教育データベース」「アーキビストの養成」「教材コンテンツ」「大学教育」「教育に関する調査研究及び社会貢献活動」のセッションに分かれて87件発表があり、日頃の実践、研究成果が披露されました。

1日目終了後に開かれた懇親会には50名を超える方がご参加され、会場校の岡山理科大学から学長の宮垣先生に心あたたまる歓迎のごあいさつをいただきました。懇親会場は岡山理科大の中でも最も見晴らしの良いラウンジであり、和やかな雰囲気の中、ご自身の研究テーマやシンポジウムなどを話題に活発な話し合いの場として親睦が図られ、貴重な時間を送ることができました。

年会成功のため準備から当日運営まで、お手数をおかけいたしました年会実行委員会の方々、並びに会場をお借りしました岡山理科大学の皆さまに、心からお礼申しあげます。

第22回年会論文集をご希望の方は年会実行委員会 (TEL086-256-8485, onishi@mis.ous.ac.jp) までお問合せください。なお、シンポジウムの概要は後日「教育情報研究」に掲載する予定です。

2008年度第23回年会は常盤大学で開催いたします。

## 学会誌「教育情報研究」の投稿要領・投稿手続き・執筆手順が新しくなりました！

今後の学会誌への投稿については、新しい【投稿要領】を確認のうえ、【投稿手続き及び執筆手順】に従い、【投稿票】を添えて、運営事務局に投稿ください！

なお、投稿票はホームページ <http://wwwsoc.nii.ac.jp/jsei/> からダウンロードできます。

### 投稿要領

本誌「教育情報研究」への投稿については、この要領の定めるところによる。

#### 1. 投稿者

- ◇ 専門会員は論文・解説・その他に投稿できる。
- ◇ 一般会員は専門会員からの推薦があれば（論文・解説・その他に）投稿することができる。ただし、実践研究については推薦を必要としない。
- ◇ 学生会員は専門会員からの推薦があれば（論文・解説・その他に）投稿することができる。

#### 2. 掲載内容

本誌は、教育情報に関する研究誌であり、下記の論文等を掲載する。

- (1) 論文
  - ・ 教育情報に関する独創的な研究結果の報告、あるいは、会員の参加資料として役立つことを目的としたデータ等をまとめたもの。
  - ・ 研究報告、教育情報資料、特定の分野の現状等を広い角度から文献等を引用して記述したもの。
  - ・ 研究速報等、新しい試みやその結果、意見、提案、論議等を記述したもの。
- (2) 論説
- (3) 解説  
特定の主題について専門外の者にもわかりやすく解説したもの。
- (4) 実践研究  
教育実践に関する研究をおこなうもの。
- (5) その他  
研究会報告、講演録、研究情報等。

#### 3. 論文などの条件

- (1) 論文については、内容の主題の部分が未掲載のものであること。また一部が既発表である場合でも、それをさらに研究をすすめたものであることを原則とする。
- (2) 原稿は原稿執筆の手引に従って執筆してあり、投稿手続に従って投稿されていること。

#### 4. 論文の審査

投稿論文は、査読委員による審査の結果に基づき、編集委員会においてその取り扱いを次の①～③のいずれかに決定する。

審査基準は、有効性、新規性、信頼性、了解性および論文の体裁の5項目とする。

- ① 採録  
採録の結果を投稿者に通知する。
- ② 条件付き採録  
照会后修正することを条件として採録する。なお、照会后3ヶ月以上経過してからの投稿については、新規投稿論文とみなす。
- ③ 返戻  
返戻理由を付して、原稿を投稿者に返す。

# 投稿手続き及び執筆の手引き

## 投稿手続

### (1) 原稿の投稿

下記のことを運営本部事務局へ送付する。また、原稿のコピーは手元に残しておくこと。

- ① 所定の投稿票
- ② 原稿・・・原稿執筆の手引に従って執筆してあるもの。図表、写真等は、本文中の引用位置に貼り付けた状態であること。(図表、写真などはその内容が分かればよいので、この段階で添付する必要はない)
- ③ 原稿の電子ファイル (FD, CD等)

### (2) 投稿論文の受理

投稿論文は受付されると受領書が送付される。投稿後2週間経っても受領書が送付されない場合は、運営本部事務局へ問い合わせること。

### (3) 投稿論文の審査

原著論文は専門会員2名による審査の結果に基づき、実践研究は専門委員による審査の結果に基づき、編集委員会においてその取り扱いを次の①～③のいずれかに決定する。

審査基準は、有効性、新規性、信頼性、了解性および論文の体裁の5項目とする。

- ① 採録  
採録の結果を投稿者に通知する。
- ② 条件付き採録  
照会后修正することを条件として採録する。なお、照会后3ヶ月以上経過してからの投稿については、新規投稿論文とみなす。
- ③ 返戻  
返戻理由を付して、原稿を投稿者に返す。

### (4) 採録が決定した投稿論文の取り扱い

採録が決定した場合は、次のものを提出する。

- ・最終原稿 (プリントアウトしたもの、図表、写真等の挿入位置を明記する)
- ・最終原稿の電子ファイル (本文のみをテキストファイル形式で記録したもの)
- ・図表・写真等のオリジナル (オフセット印刷になるので、明瞭なものであり、刷り上がり寸法の1～2倍の大きさであること。裏に図表番号を記入する)

なお、提出した原稿等は返却しない。

### (5) 条件付き採録が決定した投稿論文の取り扱い

論文を修正した後、再投稿すること。再投稿原稿の採録が決定した場合は、投稿者に通知する。

### (6) 校正

採録が決定した原稿は、印刷の際に著者校正を1回行う。元原稿および原図面を訂正することは原則として認めない。また、この時に別刷を注文することができる。

## 投稿論文の送付方法

郵便、宅配便、持参とする。

〒500-8813 岐阜市明德町10番地 杉山ビル4F

岐阜女子大学 文化情報研究センター内

日本教育情報学会 運営本部事務局

Tel 058-267-5233 Fax 058-267-5238 E-mail:nkjg@gi-jodai.ac.jp

## 執筆の手引き

### (1) 原稿書式

- ① 本文はワープロ等で作成し、A4判の用紙を使用すること。
- ② 原稿は、刷り上がり（1頁あたり 24文字×37行×2段）が、12頁以内であり、かつ偶数頁におさまることを原則とする。（学会誌刷り上がりイメージと同様）

### (2) 記入方法

学会誌刷り上がりイメージと同様なので、学会誌を参照すること。

- ① 題目の記入（1頁目 1段抜き）  
原稿の冒頭には、題目（和英両文）、著者名（和文）を入れる。題目と著者名を合わせて、11行分で記入する。
- ② 所属等の記入（1頁目 最下行から数行 1段抜き）  
1頁下部に罫線を記入し、その罫線下部に、著者名（ローマ字）、所属（和文）、住所（和文）、電子メールアドレス（任意）を入れる。著者名（ローマ字）は、著者名（和文）と対応が付くように、\*（アスタリスク）記号（上付）を用い引用する。なお、論文受理後に論文受理日を記入するので、1行分空けておく。
- ③ 和文抄録、キーワード（1頁目 12行目から）  
著者名（和文）の次の行から記入する。和文抄録は400字以内とし、見出しは<和文抄録>とする。キーワードは5語程度とし、見出しは<キーワード>とする。
- ④ 本文（1頁内より始まり以降2段）  
はじめ、本論、まとめの順とする。本論は簡潔かつ明瞭に記述すること。
  - a. 見出しは、次の順とする。  
大見出し 1. XXX 中見出し (1) XXX 小見出し ①XXX
  - b. 図（写真）・表には、それぞれ通し番号および名称をつける。
    - ・ 図（写真） 図（写真）の下に 図1（写真1） XXX
    - ・ 表 表の上に 表1 XXX大きな図表の場合には、適宜本文のレイアウトを変更し、見やすくすること。  
論文採録後に白黒で印刷されるため、写真は原則として白黒写真を用いること。  
寸法 左右（最大）72ミリ（片段）150ミリ（両段）  
天地（最大）197ミリ（名称を含む）
  - c. 句読点は、まる「.」、カンマ「,」、中点「・」、コロン「:」を用い、一字分（全角）とする。
  - d. 参考（引用）文献は、まとめて末尾に次の順で記述する。
    - ・ 雑誌の場合 著者（発行年）、表題、雑誌名、巻数、ページ
    - ・ 単行本の場合 著者、書名、発行所、発行年参考（引用）文献には、本文中での参考（引用）順に通し番号（例：[1]）をつけ、本文中の該当箇所にも番号（上付）をつける。

題 目<和文> MS ゴシック 12ポイント

題 目 <英文> MS 明朝 10.5ポイント

\*1 \*2  
著者名<和文>/情報 花子

11行

<和文抄録> (400字以内 )

○○○○○○○○○○○○○○○○, ○○○○○○○○○, ○○○○○○○○○○○○○○○○○, ○○○○○  
○○○○○○○○○○, ○○○○○ 45文字×9行以内

9行  
以内

<キーワード>

○○○, ○○○○○○, ○○○○, ○○○○○, ○○○○○, ○○○○

2行

1. 大見出し

(1) 中見出し

①小見出し

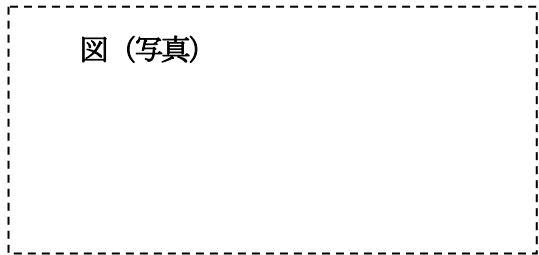


図 (写真)

図1 (写真1). XXX

- ・本文文字ポイント<10.5>
- ・本文フォント<MS 明朝>
- ・句読点は、まる「。」カンマ「,」 コロン「:」を用い一字分とする。
- ・図 (写真) 及び表は、それぞれ通し番号及び名称をつける。
- ・参考 (引用) 文献は、まとめて末尾に記述する。

○○○, ○○○○○○, ○○○○, ○○○○○, ○  
○○○, ○○○○○○, ○○○○, ○○○○○.

表1. XXX

	表

※ 詳細については、執筆手引きを参照ください。

○○○, ○○○○○○, ○○○○, ○○○○○, ○  
○○○○○, ○○○○, ○○, ○○○, ○○○○○  
○, ○○○○○, ○○, ○○○○○, ○○○○○○,  
○○○.  
○○○○○, ○○○○, ○○○○○○○○○○○○○

論文受理日：(一行空けておく)

\*1 著者名<ローマ字>：所属<和文> (〒住所<和文>) 電子メールアドレス (任意とする)

\*2 JYUHO Hanako：日本教育情報学会 (〒500-8813 岐阜市明德町 10 番地) nkjg@gijodai.ac.jp

日本教育情報学会誌『教育情報研究』投稿票

●投稿論文等に関する事項

論文投稿日		20	年		月		日
表 題	和文						
	英文						
著者名 (所属) 全員記入	( )						
欧文著者名							
原稿枚数	( ) 枚 *完成予定原稿形式 (図・写真等を入れ込む)						

●査読に関する事項 \*該当する項目の□にチェックして下さい。

投稿種別	<input type="checkbox"/> 1. 論文 <input type="checkbox"/> 2. 実践研究 <input type="checkbox"/> 3. 論説 <input type="checkbox"/> 4. 解説 <input type="checkbox"/> 5. その他 ( )
分野	(論文の研究分野を主たるものか順に記入する)
発表歴	関連発表名 (タイトル、大会名、発表年月日)

●代表者 (筆頭筆者) に関する事項

氏名			
会員番号		会員種別	
所属			
所属先住所	〒		
推薦専門会員			
連絡先	自宅 ( ) 所属先 ( )		
	住所		
	電話番号		
	FAX		
	電子メール	(必須)	

## \*\*\*\*\* 「協賛」する大会等のお知らせ \*\*\*\*\*

大会名称：8th International Conference on Information Technology Based Higher Education and Training (I THET 2007)

開催期間：平成19年7月10日(火)～13日(金)

開催場所：KKRホテル熊本

論文締切：平成19年2月1日(木)

目 的：情報技術を活用した高等教育に関する国際会議

学会情報：I THET 2007 HP (<http://ithet07.coe.kumamoto-u.ac.jp/>)

## \*\*\*\*\* 「研究会活動について」のお知らせ \*\*\*\*\*

日本教育情報学会では、設立当時より著作権、教材開発、コンピュータの教育利用、教育情報などの分野で研究会活動を行ってきました。

これらの経緯を踏まえて今日的課題である著作権、デジタルコンテンツの教育利用方法、不登校、いじめなど、教育現場が直面している重要課題について議論し、研鑽を深めるための研究会の活動を積極的に支援していきたいと思えます。

そこで11月に開催された運営委員会において、当面以下の分野において研究会活動を支援することになりました。会員各位におかれましては、積極的な参加をお願い致します。また、その他の分野での研究会活動をお考えの場合もぜひ事務局へご連絡くださいますようお願い致します。

### 1. 著作権研究会 (担当：坂井知志 (常磐大学))

知的財産権が議論される中で、著作権は情報を作成する者、利用する者の両者に関わる基本的な法律となっている。デジタル・アーカイブやeラーニングを行うためにはどのように著作権と向き合いながら教育活動を進めたらよいかについて研究を行う。

### 2. 教職開発研究会 (担当：沖裕貴 (立命館大学)、林徳治 (山口大学))

今日的な重要課題である教員の資質向上を図る研修のあり方について話し合い実証研究を行う。(例：授業改善、情報モラルなど)

### 3. デジタルアーカイブズ研究会 (担当：久世均 (岐阜女子大学))

最近全国の市町村や各種の博物館、図書館、資料館等において、地域資料や収蔵物のデジタル化による保存と流通への取り組みが全国的にも進められ、また、企業においても、その保存する資料の消耗や散逸を防ぎ、活用の円滑化のためのデジタル・アーカイブの取り組みが始まっている。さらに、教員も著作権をはじめ、どのような情報活用能力を必要とするか検討が進められている。そこで、この研究会ではこれらのデジタル・アーカイブに関する課題やその活用のあり方について研究を行う。

【平成19年2月11日、岐阜女子大学文化情報研究センターにて開催】

### 4. 学習支援環境研究会 (担当：堀口秀嗣 (常磐大学))

すべての学校にICTが導入され、さらにノートパソコンや無線LANが使えるというように、普通教室や体育館などでも授業でICTが利用できるようになってきた。しかし、依然としてWebブラウザとビジネス用パッケージだけで利用できることに留まっている。このようなユビキタス情報環境をさらに有効に活用するために、eラーニング、デジタルポートフォリオ、Web調査、ルーブリック評価など、授業や学習と評価のための多様な利用法を促進させるためのソフト開発や多様な実践的利用を研究していく。

### 5. 木田宏教育資料研究会

木田宏先生のオーラルヒストリーをはじめとして、著書など多様な資料の整備が進んでいる。そこで、今後、どのように活用していくのか考える会を行う。

【平成19年2月11日、岐阜女子大学文化情報研究センターにて開催】